

え

る

の

あ

2011

2 Feb

No.38

## 北海道立女性プラザだより

### 目次

- 女性プラザ祭2010教養講演会の報告… 1
- 女性プラザ祭2010レポート…………… 2
- インフォメーション…………… 4



## 女性プラザ祭2010教養講演会の報告

### 「女も男も幸せになれる仕組みへ～ワークライフバランスを考える」

朝日新聞編集委員兼論説委員 竹信 三恵子 さん

昨年11月18日に開催した女性プラザ祭2010では、09年「反貧困ジャーナリスト大賞」を受賞し、05年まで男女共同参画会議専門委員だった竹信三恵子さんをお招きして、講演会を開催しました。以下に講演の内容を紹介します。

戦後の日本は、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割分担が一般的で、仕事をしている男性は家に妻がいる「妻つき男性モデル」が会社を支えていましたが、80年代からの雇用の規制緩和や進まない均等待遇と不況・デフレなどから、現在の日本は、「女性は働き続けることが難しい社会」でありながら「女性も働き続けることが必要な社会」になっています。

しかし、働く女性の状況を見ると、53%が非正規雇用で、男女間格差があり、さらに企業間格差や地域間格差などのいろいろな格差が生じていて、その格差により貧困層も増えてきました。

女性も社会で働くようになりましたが、家事の負担はいまだに女性にあり、「父のように働き、母のように家事・育児・介護」を続けなければいけない、つぶれそうな状況です。

誰もが働いて経済的に自立し、働くことと生活のバ

ランスを保つためには、自分を楽にする働き方が重要です。ワークライフバランスを考えることは、女性も男性も幸せになれる仕組みであるわけです。

自分が終焉を迎えるときに、あの時あれをやっておけば良かったという悔いが残らないように、思ったことはすぐにでも実行しておくこと、自分の長所を見つけ磨いていくことを心がけながら、生きやすさをもとめた働き方を考えていきましょう。

などパワー溢れるお話しをしていただきました。



全道各地域から約200名の参加がありました。

発行／北海道立女性プラザ（指定管理者：財団法人北海道女性協会）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 (011) 251-6329・6349

【ホームページアドレス】 <http://www.l-north.jp/>

（休館日：日曜・祝日・年末年始）（開館時間：月～金9:00～21:00、土9:00～17:00） \*申込・お問い合わせは9:00～17:00をお願いします。



# 女性プラザ祭2010レポート

日時：平成22年11月15日（月）～20日（土）

会場：かでの2・7 6階女性プラザ交流フロア・学習室・4階大会議室 等

女性プラザでは、毎年11月に開館記念事業「女性プラザ祭」を開催しています。今年は新たにDVD上映会と女性プラザサポーターの「行動する女性のネットワーク（AWN）」主催のライフセミナーを加えて賑やかに開催しました。

以下に11月18日開催の女も男もワイワイセッションとライフセミナーの一部を紹介させていただきます。

## 女も男もワイワイセッション

### 自殺予防を目的とするいのちの電話の活動

社会福祉法人北海道いのちの電話

理事長：南 槇子



現代社会では深い悩みを抱えながら相談できず、孤独の中で苦しむ人が沢山います。私たちはそうした方と共に考え、再び元気を取り戻し生きていけるように心の支えになることを目的として活動する団体です。

いのちの電話は、相談料無料で名前を言う必要はなく、24時間いつでも相談を受けます。秘密を守り、宗教や思想を尊重し、相談員は1年半の研修を受けています。昨年受けた電話は18,300件余りですが、相談員の数が足りず、実際はこの何十倍もの電話があったと思われます。

電話の半分くらいは精神障害の方からで、中には自分の性欲を満たす目的だったり、あるいは社会に対する不満から、ずっと大声で罵倒し続ける電話などもあります。相談者は、都会の中で話し相手もなく孤立し、世間的にうまく生きる知識もお金もなく深い孤独の中にいます。こちらの都合で電話を切らないようお願いしていますが、きちんとお話をして切らせていただく場合もあります。相談員は専門家ではないので相談者と常に対等にその方の辛さ・悲しみに一番心を向けて、対話することを心掛けています。相談員の報酬は、深いところで気持ちがふれあえた喜び、そして自分の中の優しさを引き出してもらえたその喜び、それだけです。

自殺についての相談電話をかけるのは女性が男性の2倍いますが、年間3万人以上が自殺している中で、実際に亡くなっているのは男性が女性の2倍以上です。

このことを男女共同参画で考えてみますと、ジェ

ンダーに縛られ苦しんでいる男性の姿が見えてきます。それは、お母さんが「男の子は我慢よ。泣き言は言わないの」という育て方をしていることが原因の一つかもしれません。また、男性は働いて給料をもらえなければ価値がないという奥さんからの無言のメッセージでリストラされても言い出せなかったりします。

また、家事労働ができない男性からの介護の相談も増えていて、男性も女性もコミュニケーション能力と基本的な家事能力が生き抜く力として必要であると感じます。男性を巻き込んで、男女共同参画をもう一度見直す必要があるのではないのでしょうか。

### 地域の課題を宝に～生活当事者の可能性

NPO法人地域生活支援ネットワークサロン

理事：日置真世



私がこの活動に関わったのは長女がレット症候群という障がいを持って生まれ、親の会に入ったのがきっかけです。私は自分の肩書きを「場づくり師」と名付けています。

このNPO法人の前身は93年に発足したマザーグースの会という障がい者の親の会で「親が元気なら子ども元気」がモットーでした。おしゃべりがメインでしたが、98年に「みんなのごきげん子育て」という本を発行したことで転機が訪れました。子育てに必要な情報を障がい児を育てた視点で書いたのですが、これが非常に反響を呼び、今まで人に助けをもらっただけでしたが、私たちにも役に立つ情報を提供できることを実感しました。次の年、助成金で活動したのが「療育サロン」で、好きな時に集まって勉強会をしたりする「たまり場」をつくりました。単年度事業でしたが、これは面白く皆さんに喜ばれるの

で継続したいと思い、翌年新たに立ち上げたのが「地域生活支援ネットワークサロン」でした。ここで、私たちは障がい児の子育てからスタートしていますが実は、障がいがなくともみんな悩んでいたということ。不登校の子が行き場所がないとか親の介護など色々悩みを持って暮らしています。それなら障がい児に限定せずに地域の課題を支援する地域生活支援ということにしました。

この年NPO法人を取得。その後、障がいのある人が働く小規模作業所を運営するにあたり職員を3名雇い、以来地域に必要なものを考え年々増殖しています。現在釧路市内に20の拠点があり、職員が150名程の会社になりました。ニーズがそれだけ地域の中にあっただけということ。今日のタイトルに地域の課題を宝にとありますが、課題はすごく大事でみんなで知恵を持ち寄ると色々なことが可能になります。

今までの福祉は利用する人とケアする人は一方通行でしたが、人間生きていく中では人の役に立つとか自分に役割があることがとても重要です。また、課題を考えるとポイントの場所は場所と場づくり師（コーディネーター）がいることです。そして地域の必要なことをよく知っている人（ニーズマスター）と実際に困っている当事者とが会うことが大事です。実行するときは、いきなり事業になるのではなく、やってみて現状を確かめるプロセスがとても大事になります。

現在、プロセスを大事にしている代表的な事業として、コミュニティハウス冬月荘と地域起業創造センターまじくるという二つの事業があります。

（この後活動の様子などを映像でみせていただきました）

※その他、次のような事業も開催されました。

11月15日	
DVD上映会「マーサの幸せレシピ」	32名参加
11月16日	
セミナー：女性と仕事	25名参加
（主催 北海道のGEMを高める会）	
講演「こんなに変わった女性の年金 ～悔いのない人生をおくるために」	
講師	熊谷社会保険労務士事務所 熊谷たか子
11月19日	
女性セミナー	56名参加
（主催 北海道女性団体連絡協議会）	
講演「北方領土問題について」	
講師	北方領土復帰期成同盟副会長 木下武久
報告会	「北方四島交流訪問団に参加して」



ボランティアビューロコスモスによるバザー



お茶会

来年度の女性プラザ祭のメイン事業は、平成23年11月15日(火)に開催を予定しています。

## ライフセミナー

「未来のあなたと出逢いませんか？～シニア度判定シートでチェック！」

主催：行動する女性のネットワーク（AWN）

老後の3Kというのに、経済・健康・孤独があるそうですが、今回のライフセミナーでは、この3つ目のK：孤独にならないために、心豊かに楽しく過ごす未来の自分の生活を考えることを目的にこのライフセミナーを企画しました。

はじめにAWN作成の「あなたの近未来フローチャート」や「楽しいシニアライフ段階別判定」により、具体的に自分の未来をイメージした後、ロールプレイで三世の登場人物になりきって、個人の性格のほか、時代が求める介護者としての役割などを背負いつつ、違った老後（介護生活）を生きた女性を参加者に演じていただき、これにより意見交換を行いました。

参加者からは、施設に入居したことで、奇跡的といえるほどに痴呆が改善した方の事例紹介や男性にも介護役割が重くのしかかってきている現状、また、小樽から参加された方からは、自治体主催の介護研修で、有料にもかかわらずたくさんの参加希望者があることなど、活発な報告・情報交換がなされ、AWNが得意とする参加型の研修として大変有意義な事業になりました。





## 新着DVDソフトのご紹介

番号	タイトル	時間
D-19	産休・育休ガイドシリーズ ①産休・育休の基礎知識	35分
D-20	産休・育休ガイドシリーズ ②仕事と育児 両立のポイント	30分
D-21	おひとりさまを生きる	37分
D-22	人と人のよりよい関係をつくるために 交際相手とのすてきな関係をつくって いくには	42分
D-23	実録！在宅ワーク成功のポイント 広げよう！在宅ワークネットワーク	13分

このDVDは、道内に所在する女性団体・グループ等が、無料で研修会・学習会等に使用する場合に貸出も行っております。貸出は2週間以内2本までです。この他にも貸し出しできるビデオ・DVDがございます。当プラザのホームページに利用方法及び貸出ビデオ・DVDを掲載しています。詳細についてはお問い合せください。

## ピックアップ書籍 平成22年度新着図書は200冊



イクメンで  
行こう!

渥美由喜 著  
日本経済新聞  
出版社



昭和二十年夏、  
女たちの戦争

梯 久美子 著  
角川書店

男女平等参画に関する図書で、女性プラザに置いて欲しい本がございましたら、情報提供フロアに設置してあるご意見箱でお知らせください。

## 女性プラザ携帯電話サイトのお知らせ

女性プラザの事業については、携帯電話のインターネットでも、携帯サイトでご案内しております。

携帯サイトは、右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダーで読み取るか、下のアドレス（URL）を指定してください。

<http://www.l-north.jp/k>

※ l は小文字の L (エル) です。



なお、好評をいただいております「女性のための教養講座～女性大学～」については、実施時期が近くなりましたら開催案内をこちらからご覧になることができます。

また女性大学につきましては、携帯メールでのお問い合わせにも応じています。

右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダーで読みとりメールを送ってください。また、メールアドレスを登録すれば、後日問い合わせできます。

[daigaku@l-north.jp](mailto:daigaku@l-north.jp)

なお、返信には時間を要する場合があります。



## 子育てファミリー集まれ!!

日時 平成23年3月12日(土)  
10:00～12:00

会場 かでる2・7 6階  
北海道立女性プラザ

対象 未就学の子どもがいるファミリー



お父さんは

●「お父さんの子育て応援講座」(10:00～12:00)

全国の子育て中のお父さんが登場するVTRや、オリジナルのワークボードを使ったグループワークなどを通して、父親の役割や仕事と子育てについて考える、子育て中のお父さんのための講座です。  
(女性プラザと北海道の共催事業)

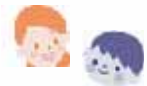


お母さんと子どもは

●「遊びの広場～お母さんといっしょ!」

10:00～

リズム遊びや集団遊び、わらべ唄の後は絵本の読み語りなど内容は盛りだくさん! 専門のスタッフと、良質な木製おもちゃを使って、親子で遊びを楽しみましょう。



11:30～

お勉強しているお父さんのために、お菓子を作っちゃおうぞ!

ファミリーで(自由参加)

●「親子でほっとタイム!」(12:00～)

イベント終了後は、お父さんもいっしょにほっとタイム! みんなでお弁当をひろげたり、作ったお菓子をつまんだり!

参加料 無料

定員 ファミリー20組(先着順)

申込 事前に電話でお申込ください。

受付期間 2月15日～3月4日

●「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。

●「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と北(North)の造語です。